１．現在の建物はいつ建てられたのか。大銀杏の樹齢は何年か。

前住職のお姉さんの話だと、「母が小田原から嫁に来たときは茅葺の本堂だった。」

昭和の時代と考えられるが調査が必要。

大銀杏は樹齢約 400 年、百日紅は樹齢約 250 年と言い伝えられている。

銀杏の根拠は、常与寺が現在地に移ったのが１６３７年で約３９０年前。その時、樹齢１０年ものを植樹したとの説（寺社創建時に火災除けに銀杏を植えた）。

２　伝習員は２００名も本堂に入れたのか。

伝習生が２００名という話は募集した人数であり、実際に実習した人数は不明である。

1 期生の卒業生数は「75 名前後」と推定される。

（推定根拠）

① 官立鴻台学校：明治 6 年 6 月 4 日認可（文部省）

→印旛県・木更津県合併並びに印旛官員共立学舎実績前提での認可と推定されること

② 認可内容：教員 14 名、生徒数 150 名、授業料 43 円 75 銭（月額）

以上並びに木更津県には官員共立学舎が存在しなかったことから、

学生数の規模＝75 名(印旛官員共立学舎推定学生数)×2＝150 名(鴻台学校認可学生数)

３．伝習員と小学校生徒は具体的にどのように学習したのか

・本堂で机、椅子を並べて勉強したのか。他に建物を作って勉強したのか。

・付属小学校は別にあったのか

9 時～10 時：講義、10 時～11 時：伝習生による生徒への授業、11 時～12 時：伝習生復習、

午後 1 時～午前同様の反復授業。当時の授業風景は江戸時代の延長（授業スタイルは寺子屋方式）。

伝習生も生徒も、本堂の中の座り机で授業を受けたと考えられる。

４．校長は誰か。教員数とカリキュラムなどはどのような構成だったのか。

印旛官員共立学舎での校長という職名は古文書に出てこない。

責任者は県令の河瀬秀治であり、教員は印旛県官員の大久保適齋他 4 名だった。

「千葉県史　明治編」によれば、

当時の学校は 8 年制で下等（4 年）、上等（4 年）に分かれていた。

下等の科目　読み方、習字、算術、修身ほか

上等の科目　細字速写、地学、史学、幾何、博物、化学ほか

５．伝習員の応募基準は？人数は？どの地域からが多かったか。

最初の応募基準は、一小区 3 人、児童教育の経験者、２０歳以上で、篤実人望がある者であった。

2 回目、3 回目の応募基準は若干変更になっている。

印旛県の流山、松戸、柏、我孫子、野田、市川、船橋、鎌ヶ谷、古河、結城等の地域から集まった。

各地域から集まった人数等は質問者が調査して定例会で発表してほしい。

６．伝習員２００人の宿泊所はどこか。

付近の家などに間借り。共立学舎規則に「入学修行者ノ者滞在中止宿ニ於テ猥に飲食ス可カラサル事、官員（教員）は毎夜見回り」があり、生徒は域内に民宿と推定　→「不行跡者は脱舎帰村」

７．伝習員の卒後、派遣された地域とその学校数は。

派遣された地域は印旛県下である。学校数は質問者が調査して定例会で発表してほしい。

８．学制が布かれた時、当時の大学区、中学区、小学区番号はいかに。

流山は第一大学区二十六番中学区　　「流山のむかし」改訂第六版　Ｐ１３３

９．千葉へ移転前する前に光明院に移ったと聞くが実態はどうか。

明治６年３月、印旛県は文部省に鴻台学校設置伺いを提出。その中に、当分の間は光明院を仮校舎とする旨が記載されていたが、明治６年６月に千葉県が成立すると、７月に鴻台学校を千葉町に移設し、千葉学校と改称する届を文部省に提出。光明院での授業は無かった。

１０．中学教員養成所は流山に無かったのか。

流山には中学教員養成所は無かった。明治１１年に千葉師範学校の中に中学教員養成所と付属中学校が出来た。

東葛地区の中学校は明治３４年、松戸中学校（千葉中学校の分校）、大正１３年柏中学校（東葛中学校）が出来ている。

１１．「千葉師範学校発祥の地」の石碑はなぜ昭和５０年代になって建てられたのか。

市はそれまで歴史や文化遺産に対する意識が希薄であった。昭和５３年に博物館ができて歴史文化が見直された結果、常与寺に石碑が建った。

１２．学制の発布は明治５年８月３日と説明しているが、太政官通達は８月２日である。（太政官第 214 号）

太政官通達が８月２日所管の機関に通達され、翌３日に発布された。

通達：行政官庁がその所轄事務について、所管の機関や職員に文書で通知すること。

発布：法律や憲法などを世の中に広く知らせること。

８月２日太政官第２１４号で公布、３日文部省布達第１３号、１４号を添えて頒布

１３．印旛官員共立学舎の教員４名はどんな人物か

教員氏名	職級	等級	月給（学舎への寄付額）
大久保適齋	大属	8 等級	70 円（廿分ノ一）
清水　光正	大属	8 等級	70 円（廿分ノ一）
真野　　節	権大属	9 等級	50 円（廿分ノ一）
渡辺　充知	権大属	9 等級	50 円（廿分ノ一）
諏訪　　慎	少属	12 等級	25 円（廿分ノ一）

（補足）①大属（だいさかん）、②県令：4 等級（月給 250 円）、③権令：5 等級

→（初代）千葉県権令・柴原氏は 5 等級により権令。4 等級に昇格後に県令

●出典：印旛県布達資料、千葉県史、流山市史、松戸市史、我孫子市史、湖北村史等

１４．常与寺に賃貸料は支払われたのか、また、伝習員が卒業して赴任した各村の学校はお寺が殆んどであるが、この場合もお寺に賃貸料は支払われたのかそれとも無料だったのか

１．力石に刻まれている雲竜等は船頭のしこ名と考えてよいか。

雲龍石は木ノ村亀吉が名付けて奉納したもの。

亀吉は明治５年２月の「東京力持番付」では、しこ名「亀吉」で東小結に載っている。

文政１２年（１８２９）舟手・寺田家に生まれる。明治１９年没、５７歳。

２．力石はいつ頃のものか。力石は浅間神社の他に、市内ではどこにあるか。

幕末から明治時代にかけてのものである。　雲龍石奉納は幕末のものと思われる。

名都借香取神社にある。

３．力石を持ち上げる大会のようなものがあったのか。また、なぜこの石が境内にあるのか。

神社の祭礼時等に船頭さん等の力自慢大会があった。

東京でも力持ち大会があった。江戸時代からから明治時代にかけて全国的に力試しが盛んに行われていた。

力自慢の人達が力石を神社に奉納した。

４．都内の富士塚は、ほとんど江戸時代のものが多いが、なぜ流山のものは明治中期なのか。

明治中期の流山は水運で隆盛を極めており、金持ち商人が多く存在した。村の鎮守様が浅間神社なので、富士塚も作ろうという機運になったと思われる。

５．築山ルールの根拠は？

民間信仰だから必ずしも同じルールで造られていない。都内の富士塚でも溶岩は一部しかない例もある。これは研究している所によって変わっているが、 基本的に富士塚の上から富士山をのぞむことができるように築造される。

６．富士塚築山以前の原状は、小さな富士塚があったのかまたは畑だったのか。

畑または民家があったと推定される。

７．浅間大神石碑（明治１９年）は小さな塚の頂上にあったのか。または境内にあったのか。

不明

８．明治時代には富士山参詣が比較的気楽になったにも関わらず明治時代に敢えて造った理由。

当時は、現在の常磐線もなく、中央線も山梨までは延びていない（延びたのは明治３４年）。気楽に行けることではなかった。

上記４項を参照

９．富士塚はいつ、誰の指揮でどのように造られたのか。築造費用は？

流山町誌には、明治 24 年から明治 25 年にかけて根郷の人達が中心に造られたとある。築造費用不明。

１０．造られた当初から女人禁制ではなかったのか。

富士登山での女人禁制解除は明治 5 年（1872 年）3 月で、女人入山自由であった。

富士塚を作った目的は、富士山参詣に行けない女性や老人、子供のために作ったとも言われている。

１１．富士塚の高さを６ｍ、８ｍと説明しているがどちらか。

一番低いところから８ｍである。

１２．根郷の住民に築山を駆り立てた動機はなにか。

上記４項を参照

１３．新政府軍が錦の御旗を立てた場所はどこか。

境内裏付近で詳細な場所は不明である。

１４．現在の神社の建物は創建当時（１６４４年）のものか。神楽殿はいつ建立したものか。

社殿は建て替えられており、現在の社殿については、佐藤茂晴氏が調査し「連絡の窓」令和５年３月号に詳しく記載してある。

棟札によると明治 20 年 12 月に再建されている。

１５．富士塚の設計者は誰か、また富士山の溶岩の運搬ルートは

溶岩の運搬ルートについては、口伝では船を利用したと言われている。

１．成顕寺について

・成顕寺の説明の中で「風早明神」を「鞍懸大明神」と改めたのは源頼朝と説明しているが、「成顕寺縁起」には源頼朝は登場していない。「風早明神」から「諏訪大明神」へと移っているが、この疑問はどう解釈したらよいか。

「通法山成顕寺縁起」には、源頼朝も登場している。どちらも言い伝えである

「千葉県東葛飾郡史」の鞍掛大竜王縁起：源頼朝が境内の松に鞍をかけて戦勝祈願したので、その後風早明神を鞍掛大竜王と呼び、この地を駒木と呼ぶようになった。

「通法山成顕寺縁起」: 当初は風早明神として祀られていたが、建治年間に竜神が悪病を流布させたので、日朗上人が法華経で竜神を雌伏させた。この竜神を妙法諏訪大明神として祀った。

２．香取神社（名都借）に水神塔が２基あるが、どこからもってきたのか。

水路や田の近くの路傍にあったと考えられるが場所の特定はできない。

３．東福寺の民話「目つぶしの鴨」は、「目かくしの鴨」ではなくそのまま伝えた方が良い。

境内での説明時は、「目かくしの鴨」とする。

４．弘法大師が流山に来たのが弘仁５年（８１４）、弘法大師の高弟桂伝阿闍梨が来たのが大同年間（８０６～８１０）で弟子の方が早く来ているのはなぜか。

両方とも縁起での話で、この種の話は全国の寺社には多数ある。空海は流山に来た記録はない。あくまで言い伝えである。

５．三輪茂侶神社の創建はいつか？

創建は不詳である

「千葉県東葛飾郡誌」大正 12 年：「三輪神社の名称は貞観 2 年（860 年）勅使が下向した時、大物主命が三輪山に鎮座することから、村名を三輪野山とし神社を三輪神社としたが、もとは茂侶神社と言っていたので、茂侶神社に変更したい」との変更願が大正 7 年に出ている。

６．大国主命と大物主命さらに大己貴主命は同一神か。三輪茂侶神社境内の縁起説明書きに同一とされる記述がある。

大国主命は、若い頃から名前をいろいろ変えている。その中に大物主命、大己貴主命があり、同一神である。いずれにしても神話上の話。

７．三輪野山貝塚遺跡

縄文時代後期から約１４００年間長期継続した大集落の遺跡は、弥生時代に忽然と姿を消した理由。

４世紀の三輪野山向原古墳までは闇の歴史

質問者が調査し、定例会で発表して欲しい。

８．東深井古墳群遺跡

（１）６世紀に有力豪族が存在し、また奈良時代には製鉄技術集団の文明地域であった東深井がその後歴史から消え去った背景は何か。

質問者が調査し、定例会で発表して欲しい。

（２）製鉄技術が大陸、九州、中国、近畿を経て東深井に伝達した背景は？

質問者が調査し、定例会で発表して欲しい。

８．諏訪神社

流山で一番古い神社は、社伝により創建が 807 年となっている諏訪神社でしょうか

北小屋香取神社の社伝では神護景雲 3 年（769 年）に桐斎殿として建てられたとある。

社伝の学術的根拠はないので、一番古い神社は限定しない。

９．西深井の浅間様

西深井の富士塚のまえに鳥居があり、扁額に「浅間神社」と書かれている。昔は社屋があったのか

１０．東福寺

思井の薬師院が廃寺になった時に、本尊の薬師如来を東福寺に移したとあるが、どこに仏像が安置されているか。

薬師如来は、東福寺本堂の薬師如来（秘仏）の前に安置されている。

詳細は別資料（(谷田か）作成）